

鹿児島工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	材料物性工学
科目基礎情報						
科目番号	0029			科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	機械・電子システム工学専攻			対象学年	専2	
開設期	前期			週時間数	2	
教科書/教材	物質科学入門, 渡邊正義・米屋勝利 共著 化学同人/ 1, 2 年次の物理, 化学の教科書および 3, 4 年次の材料学の教科書, 電子論関係書					
担当教員	池田 英幸					
到達目標						
1. 物質の三態、結晶性固体の構造 非結晶性固体および物質の状態変化について理解し説明できる。 2. 原子の構造と元素周期律について理解し、各種原子結合や相律と状態図について理解し説明できる。 3. 結晶固体の格子欠陥、物質の電気的磁気的性質について理解し説明できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	標準的な到達レベルに加えて以下 のことができる。 1) BCC、FCC、HCPの結晶構造 因子を導出できる。 2) 非晶質の微視的構造について 理解し、X線構造解析との関連を説 明できる。		1) 物質の変態、結晶構造、X線 回折とミラー指数の関係などを理 解し説明できる。 2) 非結晶性固体（金属ガラスな ど）の生成と構造、状態変化およ び微視的巨視的構造について理解 し説明できる。 3) 固体、液晶、ゴムについて状 態変化の多様性について理解し、 述べるができる。		1) X線回折とミラー指数の関係 などを説明できない。 2) 微視的巨視的見地から非結晶 性固体と結晶質固体との相違につ いて説明できない。 3) 固体、液晶、ゴムについて状 態変化の多様性について述べるこ とができない。	
評価項目2	標準的な到達レベルに加えて以下 のことができる。 1) 不確定性理論、パウリの排他 原理、局在、非局在性などについ て、量子力学と古典力学との相違 点を説明できる。 2) 各種結合状態は電子状態の相 違によることを理解し説明できる 。 3) 相律の式を導出でき、ヘルム ホルツの自由エネルギーと相平衡 について理解し、熱平衡状態を導 出できる。		1) 原子の構造、原子内の電子配 列、イオン化エネルギーと元素周 期律との関係や量子力学の概念を 学習し特性を説明できる。 2) 共有結合、イオン結合、金属 結合および弱い分子間力について 理解し説明できる。 3) 相律、平衡状態図について理 解し、熱力学の観点により状態図 について説明できる。		1) 量子力学と古典力学との相違 点を認識できない。 2) 電子状態の相違による各種結 合状態の特性を説明できない。 3) 自由エネルギーにより熱平衡 状態を求める方法を説明できない 。	
評価項目3	標準的な到達レベルに加えて以下 のことができる。 1) 点欠陥の熱平衡濃度を自由エ ネルギーにより用いて求めること ができる。 2) 電気伝導や超伝導現象、半導 体、絶縁体について電子論の観点 から定性的に説明できる。		1) 点欠陥、線欠陥、面欠陥、バ ルク欠陥について理解し説明でき る。 2) 金属、合金の電気伝導、磁性 、超伝導について理解し説明でき る。 3) 絶縁体と半導体の電気特性に ついて理解し説明できる。		1) 各種個体中の欠陥について説 明できない。 2) 電気伝導、磁性、超伝導、絶 縁体、半導体の特性について説明 できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	金属、半導体、セラミックス、金属間化合物などの工業材料の物性に関する基本的知識を学習して説明でき、将来その工学的応用が可能となることを目的とする。					
授業の進め方・方法	講義形式で行う。各内容について解析的に説明可能な場合は極力式の導出を行うが、内容が広範囲にわたりかつ時間の制約のため結果のみを示し、定性的説明に留める場合がある。各自の特別研究において実験装置や測定器の中で、材料の特性を利用しているものについてその名称、使用されている材料名と動作原理に関する報告書を課す。					
注意点	機械系や制御系の専門科目とは分野が異なるため、教科書や参考文献等により予習し、復習を行うこと。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1. 物質の三態、結晶性固体の構造		□ 物質の変態、結晶構造、X線回折とミラー指数の関係などを理解し説明できる。	
		2週	2. 非結晶性固体		□ 非結晶性固体（金属ガラスなど）の生成と構造、状態変化および微視的巨視的構造について理解し説明できる。	
		3週	3. 物質の状態変化		□ 固体、液晶、ゴムについて状態変化多様性について理解し、述べるができる。	
		4週	4.原子の構造と元素周期律		□ 原子の構造、原子内の電子配列、イオン化エネルギーと元素周期律との関係や量子力学の概念を理解し説明できる。	
		5週	4.原子の構造と元素周期律		□ 原子の構造、原子内の電子配列、イオン化エネルギーと元素周期律との関係や量子力学の概念を理解し説明できる。	
		6週	5. 各種原子結合		□ 共有結合、イオン結合、金属結合および弱い分子間力について理解し説明できる。	
		7週	5. 各種原子結合		□ 共有結合、イオン結合、金属結合および弱い分子間力について理解し説明できる。	
		8週	6. 相律と状態図		□ 相律、平衡状態図について理解し、熱力学の観点により状態図について説明できる。	
	2ndQ	9週	6. 相律と状態図		□ 相律、平衡状態図について理解し、熱力学の観点により状態図について説明できる。	

		10週	7. 結晶固体の格子欠陥	☐ 点欠陥，線欠陥，面欠陥，バルク欠陥について理解し説明できる。
		11週	8. 物質の電氣的，磁氣的性質	☐ 金属，合金の電気伝導，磁性，超電導について理解し説明できる。
		12週	8. 物質の電氣的，磁氣的性質	☐ 金属，合金の電気伝導，磁性，超電導について理解し説明できる。
		13週	8. 物質の電氣的，磁氣的性質	☐ 絶縁体と半導体の電気特性について理解し説明できる。
		14週	8. 物質の電氣的，磁氣的性質	☐ 絶縁体と半導体の電気特性について理解し説明できる。
		15週	試験答案の返却・解説	試験において間違った部分を自分の課題として把握する（非評価項目）
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	0	0	30	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0